

第1章 運営計画

第1節 サービス提供目標

1. つきみの園グループ運営ビジョン

東京聖労院の存在意義と基本理念、法人職員倫理綱領に則り、職員一人一人が、笑顔を絶やさず、心地よい挨拶ができ、その上で、各事業が専門性を活かした質の高いサービスを、効果的に、効率よく提供することにより、地域の福祉に貢献します。

2. 中期事業目標（令和3年度から令和5年度）

法人事業計画に則り、つきみの園グループの事業目標を下記の通りとします。

計画目標	令和3年度	令和4年度	令和5年度
将来への事業継続を維持する 利用率の目標達成と経費削減により、増減差額三％を最低目標とし	① 特養 98%短期 107%稼働維持 合計 98.8%	① 特養 98%短期 107%稼働維持 合計 98.8%	① 特養 98%短期 107%稼働維持 合計 98.8%
	② 通所一般と総合一体 85% 新たな加算の算定	② 通所介護 85% 加算取得安定化	② 通所介護 85%
	③ 訪問介護 特定事業所加算の取得を目指す 介護給付と総合割合見直し (サービス時間 3:1)	③訪問介護 サービス提供時間の安定・収益率の安定化	③ 訪問介護 安定経営
	④ 居宅 特定事業所加算継続取得	④ 居宅 特定事業所加算継続取得	④ 居宅 特定事業所加算継続取得
	⑤包括委託事業と介護予防支援事業によるバランス	⑤包括委託事業と介護予防支援事業によるバランス	⑤包括委託事業と介護予防支援事業によるバランス
備える。 感染症等への対応に未知なる災害や感染症等への対応に	① 自然災害時の事業継続計画更新と充実	① 自然災害時の事業継続計画定期見直し	① 自然災害時の事業継続計画定期見直し
	② 感染症発生時の業務継続計画の作成 予防策と対応策の具現化	② 感染症発生時の業務継続計画の作成 予防策と対応策の具現化	② 感染症発生時の業務継続計画の作成 予防策と対応策の具現化
開する。 地域に貢献する組織としてサービス展開	① 認知症ケアの充実、機能維持、予防への取り組みの継続	① 認知症介護リーダーの配置、加算取得(特養・通所)	① 認知症介護リーダー配置継続
	② 地域の介護予防・生活支援の担い手の育成・軽度者サービス(通所・訪問)の担い手としての地域住民との連携	② 地域の介護予防・生活支援の担い手の育成・軽度者サービス(通所・訪問)の担い手としての地域住民との連携	②地域の介護予防・生活支援の担い手の育成・軽度者サービス(通所・訪問)の担い手としての地域住民との連携
	③ 地域住民参加、ネットワークづくり、サロン等の確立	③ ボランティア等との関りの再構築	③地域住民との関りの見直し

テクノロジー機器の 効果的な活用による 組織の効率化、活性 化を図る。	① ICT 化促進・介護記録ソフト記録の効果的な活用に取り組む。	① 令和3年度の介護報酬改定での新たな加算取得を安定した収入源とする。	① 次期介護保険改定に向けての情報収集に努める。
	② 上記の取り組みにより、「ムリ」「ムダ」をなくすことで、よりケアの充実を図る。	② 職員定数見直しとケア充実の整合性を図る。	② 次期介護保険改定に向けての情報収集に努める。

3. 令和3年度の重点的事業目標

(1) 増減差額3%を最低目標とし利用率の目標達成と経費削減により、将来への事業継続を維持する。

行動計画	具体的項目	担当部門								達成状況指数
		総務	栄養	特養	短期	通所	訪問	居宅	包括	
① 稼働率向上・維持	新規顧客の獲得	○	○	○	○	○	○	○	○	管理職経営会議での把握（毎月）
	サービス範囲の再構築	○	○	○	○	○	○	○	○	
② 加算取得状況確認	介護報酬改定に伴い、新たな加算の取得を確認	○	○	○	○	○	○	○	○	管理職経営会議での把握（毎月）

(2) 未知なる災害や感染症等への対応に備える。

行動計画	具体的項目	担当部門								達成状況指数
		総務	栄養	特養	短期	通所	訪問	居宅	包括	
① 自然災害時事業継続計画	ガイドライン活用	○	○	○	○	○	○	○	○	毎月課長会にて年間計画を立て把握
	事前準備・発生時の対応	○	○	○	○	○	○	○	○	
	職員周知、訓練等	○	○	○	○	○	○	○	○	
② 感染症発生時の業務継続計画	ガイドラインの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	
	予防策と発生時対応策	○	○	○	○	○	○	○	○	
	職員周知、訓練等	○	○	○	○	○	○	○	○	

(3) 地域に貢献する組織としてサービス展開する。

行動計画	具体的項目	担当部門								達成状況指数
		総務	栄養	特養	短期	通所	訪問	居宅	包括	
① 認知症ケアの充実、機能維持、予防への取り組みの継続	認知症研修受講			○	○	○	○		○	毎月課長会にて割合の把握
	DT 活動、脳の体操、健康教室等の取り組み			○		○			○	

② 地域の介護予防・生活支援の担い手の育成・軽度者サービス担い手としての地域住民との連携	地域住民参加	○		○	○	○			○	ボランティア、サブスタッフ、サポーター数把握
	ネットワークづくり・地域サロン	○						○	○	サロン回数、参加者把握

(4) テクノロジー機器の効果的な活用による組織の効率化、活性化を図る。

行動計画	具体的な項目	達成状況指数
① ICT化促進・介護記録ソフト記録の効果的な活用に取り組む。	テクノロジー機器と介護記録ソフトの連携を図り、データ化に取り組む。	管理職経営会議で把握 年6回
② 上記の取り組みにより、業務の「ムリ、ムダ」を減らし、ケアの充実を図る。	ケアの充実と職員の心身の安定を視野に入れて、効率化も進める。	管理職経営会議で把握 年6回